

〈研究成果の紹介〉

棚田オーナー制度の評価と展開方向

農業研究部 経営・植物工学グループ

1. 成果の内容

我が国農業の歴史・文化的遺産である棚田は、観光・地域交流の資源としても注目され、いろいろな地域でオーナー制度への取り組みが行われています。そこで、棚田が持つ自然、文化、景観・環境などのサービス機能及び農産物提供を組み合わせた新たなオーナー制度の可能性を検討するため、コンジョイント分析という手法で解析しました。

棚田オーナー制度の展開方向は、会員のアイデアや考えをもとに、①自然が満喫できるアウトドア・スペースやシステムを会員に提供するかどうか、②千枚田、稲作、地域文化を保存する活動や学習プログラムを会員に提供するかどうか、③周辺に桜、紅葉、雑木広葉樹などの植栽を進め良好な自然環境を創出するシステムを会員に提供するかどうか、④千枚田関連の米、野菜、加工品の産物宅配の量、種類、時期を増やすなどシステムを拡充するかどうか、⑤会費は3万円、4万円、5万円のいずれかとし、これを組み合わせる新しいオーナー制度を実施すると仮定します。

①～⑤の要素に対するオーナー重要度は「千枚田

オーナー会費（水準3～5万円）」が36.1、「稲作地域文化保存活動」も27.4と高く、他の要素の重要度は低くなっています（図1）。この重要度などから棚田の展開方向をシミュレーションすると、「会費4万円で稲作地域文化保存活動プログラム有り」の組み合わせの価値が5.0で、現行内容（会費3万円）の4.4より高く、会費を上げてオーナー満足度は高まることなどが分かります。会費を考慮しながら稲作地域文化保存活動に重点を置くオーナー制度が効果的の展開方向であることなどが明らかになりました。このほかにもオーナー制度の組み合わせをシミュレーションして、いろいろな展開方向を検討することができます（図2）。

2. 技術の適用効果と適用範囲

紀和町丸山千枚田の分析事例ですが、この方法は様々なオーナー制度の展開方向のシミュレーションなどに有効です。

3. 普及・利用上の問題点

解析には専門的な分析ソフトと知識が必要ですので、農業研究部にご相談ください。

（大泉 賢吾）

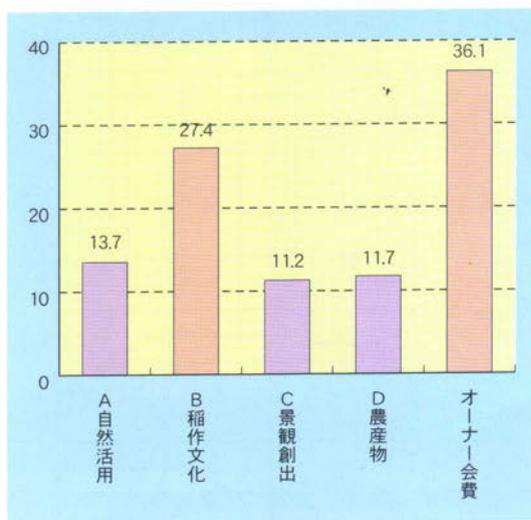


図1 棚田オーナーの要素別重要度

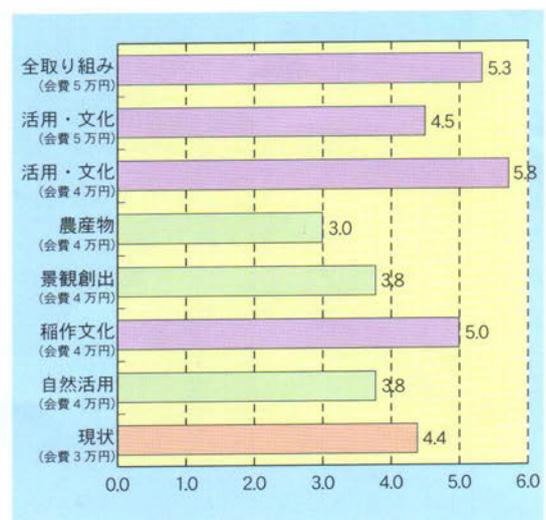


図2 要素組み合わせシミュレーション